

2 「伝え合い」を大切にした指導方法の工夫

(1) 問題提示の工夫

- ・ 既習問題との相違点が分かりやすい数量や図形を取り上げ、見通しをもちやすくする。
- ・ ペアやグループなど複数で、ゲームや測定・実験などの作業的活動や体験的活動を通して思考するような問題を設定する。
- ・ 多様な思考要素を含み、友達との意見交換が必要となるような問題や条件不足や条件過多の問題など、児童にとって少し難易度のある活用的な問題を設定する。
- ・ 問題を文章だけでなく、具体物や半具体物、さし絵や図、表、グラフなどと併せて提示したり実物投影機を活用したりすることにより、問題把握をしやすくする。



実物投影機で説明

(2) 話し合い活動への支援

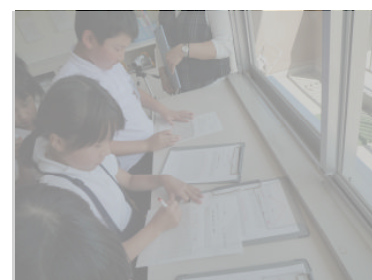
- ・ 結論を先に言ってから理由を言う、筋道立てて説明する順番の言葉を使うなど、分かりやすい説明の仕方となるような話型を提示し、互いの考えを伝えやすくする。
- ・ 基本的な「話し方・聞き方」の指導をするとともに、友達の考えを「読み解く」、説明を「復唱する」、考えの「続きを説明する」などの方法を取り入れることで、みんなで考えを共有できるようにする。
- ・ ホワイトボードや実物投影機を活用することにより、互いの考えを伝わりやすくする。
- ・ 一人の発言がより高められたものとなるように、個の発言の意図を明確にして他の児童の意見を求め、発言をつなぎながら全体での話し合いの場にのせるようにする。
- ・ 全員の児童が自分の考えを発言できるように、児童の発言を予測しながら、意図的な指名をする。

(3) ペア学習などの学習形態の工夫

- ・ 自力解決が停滞している時や全体での練り上げに入る前、全体での発言が低調になってきたときなど、ペアや隣席、グループなどの少人数で考えを伝え合ったり説明をしたりすることで、各自の考えを確かなものにし、自信をもたせていく。
- ・ ペアの組み方を、理解度に応じたペア、「伝え合い」がしやすい相性のペア、座席順によるペアなど学習のねらいに応じて工夫して使い分ける。
- ・ 発言者がより見えやすく、聞きやすく、そして話し合いがしやすいように学習に応じて座席を凹型や対面型にしたり、教師を中心とした車座になったり、コーナーごとにグループを集めたりするなどの形態を工夫する。
- ・ 自由に意見交換をし、考えを広げたり深めたりすることができるように、友達のノートやワークシートなどを見て回ったり、進度に応じて流動的にペアを換えたりすることができるようにする。



車座で話し合い



自分で答え合わせ